



元気っ子

No.271 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

3月号になりました。これで私が園長になって、1年間、12回目の元気っ子になります。振り返ってみると書いている言葉は違っていても、内容は一貫しており、環境についてのことや保育のことなど日々考えていることをお伝えしてこられたかなと感じています。また来年度においても日々刻々と変化していく環境を踏まえて保育の素晴らしさなどをお伝えしていければと思っています。

世間は新型コロナウイルスの感染拡大、その対応についての報道で溢れています。まさか誰もこんなことになるとは想像していなかったと思います。そのせいで保育園でもお別れ遠足の行先変更を余儀なくされたり、小学校の休校による学童の対応だったり様々な影響が出てきました。園としましても、行政としっかりと協議したうえで適切な対応をしております。保護者の皆様におかれましても、できるだけ「不特定多数の人が集う場所」へ行くことを避け、感染防止へのご協力を頂きますよう宜しくお願い致します。こういう時こそ冷静に対応しなくてはならないと思います。

2月は保護者の皆様のご協力を頂き、無事に職員園内研修を行うことができました。ご無理を聴いて下さり、本当にありがとうございました。おかげさまで、ほぼ全職員が研修に参加し、講演を聴くことができました。今回、お招きした講師の先生には「見守る保育」の考え方、意味や「チーム保育」についてお話をして頂きました。職員から提出してもらっている分の研修報告に目を通すと、皆それぞれに刺激を受けてくれたようでとても嬉しく思います。

何人かの職員にとっても特に印象に残ったお話に「脳の刈り込み」というものがありました。脳科学の分野のお話にはなってくるのですが、とても興味深いものでした。元々は赤ちゃんの脳はいわゆる「白紙状態」で生まれてきて、そこに色々な思考回路を形成していくと考えられていました。ですが、最近の研究結果は違っていました。元々赤ちゃんの脳には様々な能力が備わっており、その中で「必要」「不必要」と判断・選択をし、その能力を刈り込みながら脳を形成していくというものです。この研究はいかに「見守る保育」の考え方が大切かを裏付けるものになります。つまり大人があれこれやってあげたり、指示通りに行動させるなど、必要以上に過干渉になると有効な脳の刈り込み作業が行われず、正常な脳機能ネットワークが形成されにくくなるということです。

このように保育の現場においても日々さまざまな研究がなされており、我々もそういった研究に対してアンテナを張っていないといけなく強く感じました。また保護者の皆様からも職員にどんなお話だったのか聞いてみて下さい。それから最後にこんなお話も聞きました。人工知能(AI)が世の中の今ある職業をどんどん変化させていく中で、将来的にも絶対になくならない職業の1位が「保育士」だそうです。この職業だけはどんなに人工知能が進歩していても、人間にしかできないことと考えられているそうです。この「保育」という仕事に携われていることを嬉しく、また誇りに思います。

